

# 笑顔のひろば

vol. 30

2015年夏号

川崎協同病院  
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>

## 広がる内視鏡治療

### 早期のガン治療にも

川崎協同病院の消化器内科では、内視鏡による治療を積極的に進めていますが、昨年8月以来内視鏡検査だけでなく内視鏡治療の件数は着実に増えてきています。

この内視鏡治療のうち、①胃・大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)、②早期胃癌・大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、③胆道感染症や閉塞性黄疸などに対する内視鏡治療(ERCP関連処置)の3つについて簡単に紹介します。

発癌リスクのある胃・大腸ポリープを、癌化する前に内視鏡を用いて切除する手技をEMRと呼びます。これはポリープ直下の粘膜下層に局注液を注入し隆起させ、スネアと呼ばれる輪っかかけた後に高周波電流で切除する処置です(図1)。病変の径が2センチ以下のポリープであればEMRで切除が可能な場合がほとんどで、当院では2泊3日の入院で行い、年間約350件行っています。

サイズが大きくEMRでは一括切除が困難で、一部の癌化が疑われる胃・大腸ポリープや、早期の胃癌、大腸癌を内視鏡的に切除する手技をESDと呼びます。2007年に早期胃癌に対して保険収載され、2012年に早期大腸癌も保険適応となったばかりの比較的新しい治療です。EMRと同様に病変直下の粘膜下層に局注液を注入し隆起させた後に、専用の高周波ナイフを用いて病変を切開、剥離し一括切除します(図2)。



内視鏡スタッフ

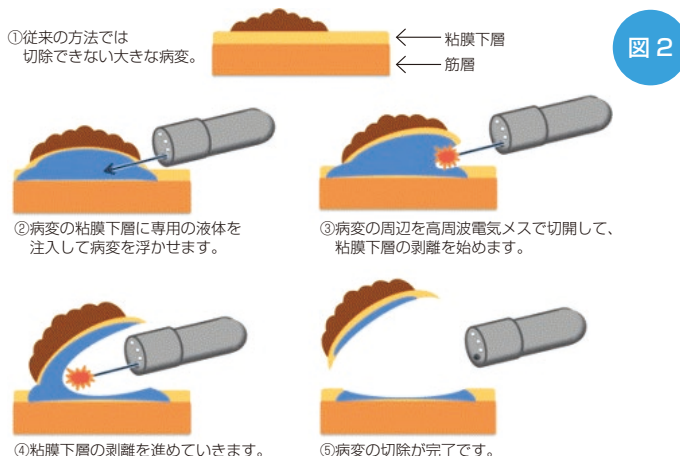
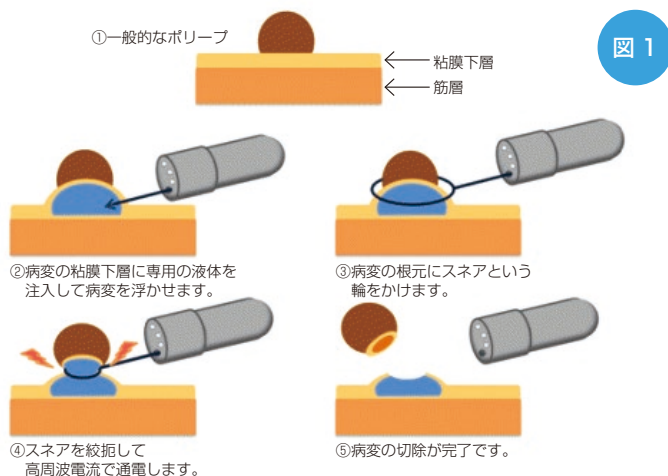
### 臓器温存のメリット

当院では昨年より早期胃癌に対して導入し、今年からは早期大腸癌に対しても導入しております。約1週間の入院での治療となりますが、外科的切除よりも臓器が温存できる面でメリットのある治療法です。

ERCP関連処置は、胆管結石や悪性腫瘍(胆管癌、膵臓癌など)による胆管炎や閉塞性黄疸(胆管が閉塞する事で生じる黄疸)、胆石性膵炎、慢性膵炎の患者に対して行います。内視鏡、X線を用いて胆管や膵管を造影した後、胆管結石の除去や胆管や膵管の狭窄部に対してステントを留置するなど様々な処置を行います。病状によっては緊急で行うことや、複数回行うことも少なくなく、すべて入院で行います。当院では昨年は約60件、今年は年間100件を超えるペースで行っています。

これらの処置の他にも、消化管出血に対する内視鏡的止血術や消化管異物の内視鏡的除去術、S状結腸捻転の内視鏡的整復術などの緊急内視鏡も原則として24時間対応可能な体制を整えています。

消化器内科 佐藤 悦基



# 『終末期チームケアアプローチ』

～患者の「いきがい」とケアの「やりがい」を両立させるには～

著者の和田浄史医師は、長年当院で終末期医療にかかわってきました。そこで経験した多くの事例を紹介しながら、理論と実践に基づいた燃え尽きないチームづくりとコミュニケーションについてまとめた一冊です。医療者向けですが一般の人にもわかりやすく書かれています。

地域に根ざした医療にあこがれて、大学を退局し当院に勤務した著者は、患者が満足して幸せな人生だったと思いながら最期を迎えるためのケアを「ハッピー エンドオブライフケア」と呼んでいます。そのケアを提供し充実させるためには、医療者が抱える問題や感情をチーム全体で共有し、患者の生きがいと医療者のやりがいをむすびつけて両立させることが欠かせないと考えています。そのためには、患者・家族も含めた医療者チームの良質で密接なコミュニケーションと、メンバーの思いを引き出しながら共通の目標を導くリーダーの存在が大切だということを訴えています。

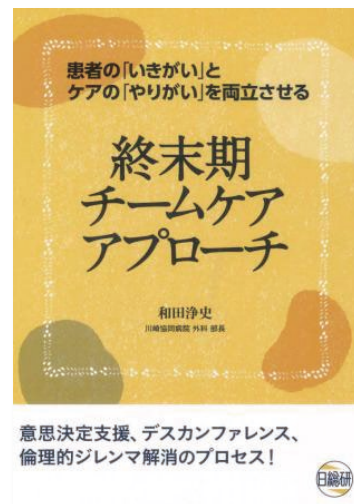
ご注文はインターネット書店などをご利用ください。

医局事務室 加川 竜

1992年横浜市立大学医学部卒。同大学で研修後、第2外科学教室入室。横浜市立市民病院、国立横浜病院、横須賀共済病院、大学病院を経て1998年当院勤務、現在外科部長。



『終末期チームケアアプローチ』  
日総研出版  
(定価本体2,778円+税)



意思決定支援、デスカンファレンス、倫理的ジレンマ解消のプロセス！



## STAFF 「もうひとつの顔」

### テントで地面に寝るここちよさ「山の魅力」

川崎協同病院 事務長 吉村 拓也

10年くらい山に登っていなかったのですが、知合いのブログに以前から登りたいと思っていた塩見岳に登ったと書かれていたのを見た事がきっかけで4年前に再開しました。泊りの場合はテントを担いで登っています。テントで地面に直接寝るのは気持ちが良いものです。

登山は天候が良いと風の感触や、木の匂い、景色など気持ち良く大好きです。逆に天候が悪いときには、辛くて時計ばかり見てしまいます。登山は必ず達成感があります。それと日暮れに近くなった時の心細さや、日が昇り始める時の安心感などは、日常ではなかなか味わえません。1日の行程が終わって飲むビールや、下山した後の温泉なども魅力です。時には愛犬と一緒に登ります。

昨年は日本最奥の温泉に行こうと北アルプスの黒部源流へ行ったり、南アルプスの最南端に行ったり、厳冬期の八ヶ岳に行ったりと目標を持って出かけていま



水晶岳頂上で愛犬と

す。今年は剣岳に行こうと決め、少し走ったりクライミングジムで練習をしています。仕事では座ってばかりなので、目標をもって少し身体を動かす良い機会だと思っています。今後はケガをしないで楽しく山に行きたいです。



# 私が担当します！

## 女性の頻尿・尿失禁・子宮脱外来を開設 ～習慣の改善や体操、服薬、手術で悩みに答えます～



産婦人科 藤島 淑子

頻尿や尿失禁、膣の違和感などは女性ならではの悩みのひとつです。産婦人科外来では毎週金曜日の午前中に「頻尿・尿失禁・子宮脱等」の治療をおこなっています。

女性の頻尿・尿失禁は非常に多くみられます。尿道が3～4cmと短いので、くしゃみで少し漏れてしまうのは不思議ではありません。しかし、自己流の排尿をおこない悪化させている場合が多くみられます。当科では、患者さんの間違った排尿習慣をなおし、正しい骨盤底筋体操を指導しています。さらに、排尿をがまんして膀胱を大きくする膀胱訓練をしています。これによって7～8割はよくなります。改善しない場合は、切迫性尿失禁には抗コリン剤などの内服治療を、腹圧性尿失禁にはTOT・TVT手術などをおこなっています。

また、子宮脱・膀胱瘤などの骨盤臓器脱（骨盤内の臓器である子宮、膀胱などが膣の方から下がってくる病気）

1990年横浜市立大学医学部卒、産婦人科専門医。15年ほど前から産婦人科で「女性の頻尿・尿失禁・子宮脱等」の外来（ウロギネ外来）診療をおこなっている。

に対しても、骨盤底筋体操・膀胱訓練などをして、改善しない場合には膣式の手術をしています。手術方法は、膣式でマンチェスター手術（子宮を残す）、膣式子宮全摘術＋骨盤底形成術、TVM手術（メッシュを利用する手術。子宮を残す）、膣閉鎖術＋骨盤底形成術などです。

気になるかたは、遠慮なく予約受診してください。また、医療機関や介護事業所で患者さんや利用者さんからこうした悩みで相談などがありましたら、お気軽にご紹介ください。

## 医療コンシェルジュを配置 看護師が担当し案内から相談まで

川崎協同病院の外来機能の一部は、少し離れた協同ふじさきクリニックにあります。内科と外科を受診する場合はこの2ヵ所を歩き来なくてはいけないことがあります。これまで当院内では「〇〇科はどこに行けばいいのかわからない」「どの科にかかったらよいのだろうか」「誰に聞いていいのかわからない」など、患者さんのとまどう姿もみられました。



コンシェルジュ担当者 集合

### あくしょん

私たちに  
お任せ  
ください。

コンシェルジュ

そこで、こうした不安や不便さを少しでも解決し、安心して当院を利用できるようにと昨年10月から院内に医療コンシェルジュを配置しました。この仕事は、ホテルでのコンシェルジュのように、病院で「総合案内」をする役割をになっていて認定資格もあります。

当院では元、現看護管理者がコンシェルジュとなり午前中、病院入り口で患者さんの対応をしています。案内が多いのですが、症状を聞き受診相談を受けたり、家族の介護相談、体調相談、外来や入院に関する苦情や意見を聞いたりすることもあります。看護師が担当する優位性をいかして相談にのりながら、患者さんの目線でものを考え、受診しやすい工夫と取り組みができるように活動をつづけていきます。

副看護部長 小森 千絵



# ～野宿者の生活改善のために 精力的に活動～

## 川崎水曜パトロールの会

病院は地域との連携がなにより大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎回紹介しています。

第10回は「川崎水曜パトロールの会」です。

(取材：地域連携室 高橋 靖明 鍵屋 真理)

「川崎水曜パトロールの会」の拠点は、川崎区貝塚2丁目の住宅地の中にある平屋のホールです。パトロール前におじゃますると、スタッフが路上で生活している人々(以下、「野宿者」という)へ配布するおにぎりなどを準備していました。

川崎では1993年6月8日、野宿者への襲撃事件がありました。これをきっかけに有志が野宿者のためにパトロールを開始したことから会ができ、野宿者とともに2003年6月に野宿者の路上生活の改善と自立に向けた事業を行うことなどを目的とする特定非営利活動法人となりました。

深夜の路上パトロールのほか、野宿者について福祉事務所や病院と一緒にいくなど精力的に活動を行っています。また野宿者とともに行政と交渉も行ってきました。病気の人や高齢者や障害を持つ人は福祉(生活保護など)につなげます。施設ができてからは施設への入所を勧めています。野宿者が要求した「屋根」は、ホームレス自立支援法による施設として実現しました。川崎市は、2003年にシェルターを設置(現在は廃止)。緊急対応、自立支援施設、生活づくりの施設ができて今も運営されています。

今回は、水曜日夜の駅前のパトロールに同行しました。当日は雨が降り、野宿者にとって厳しい日でした。ほとんどの野宿者は、身体を休める場所が決まっており、パトロールの人達は誰がどこにいるかをよく把握しています。一人ひとりに声をかけ、体調を確認したり施設の利用方法を案内しています。パトロールは毎週ブロックに分



パトロールの準備をするスタッフ

一人ひとりに声をかけ、体調を確認したり施設の利用方法を案内しています。パトロールは毎週ブロックに分

かれて夜中近くまで行われています。

<活動内容>

- \*毎週3回川崎市内の路上訪問。餓死・凍死・病死・自殺を防ぐ事を目的とし、川崎市で野宿していた者と支援者の集まりで回っている。「仲間になろう」「あなたは1人じゃない」と呼びかけ、施設や生活保護、病院を利用しながら新しい生き方を一緒に目指します。
- \*毎月の「追悼の日」過去20年で、その月に亡くなった人の思い出を語り、死者から学びます。
- \*排除や襲撃ではなく、野宿者と子どもや大人が同じ人間として出会うために、子どもと野宿の仲間との交流や講演をしています。



活動拠点の貝塚ホール

### ●川崎協同病院へひとこと・・・

彼ら(野宿者)が病院を信じ、自分自身が生きようと思うまでには、高いハードルがあります。生きるためのご支援をよろしくお願いします。

### ●おじゃまして・・・

駅前のバスターミナルでまだ人の往来が多い中で、パトロールの人が野宿者をみつける観察眼には驚きました。野宿者になってしまった経緯や状況により、服装や態度も様々であること。社会から追い詰められ、安心してゆっくり眠る事ができないこと。想像も出来ない痛みを抱えている人達を少しでも医療として手助け出来ること、また野宿者を作らない援助が大切だと思いました。

特定非営利活動法人 川崎水曜パトロールの会

代表 佐竹 拓平

川崎市川崎区貝塚 2-8-7 貝塚ホール

メール：suipato@nifty.com

TEL：044-230-0560

## 広報係 の ひとりゴト

昨年の12月、「野球がやりたい」という職員の声に応じて野球部を結成しました。川崎協同病院を中心に法人内の職員に声をかけた結果20人弱のメンバーで、今年の3月から本格的に始動しました。医師、看護師、リハビリ、介護職、事務、SWと多くの職種が集まり、月1回練習試合をしてきました。そこで初めて出会う職員同士もいましたが、野球を通してすぐに仲良くなりました。そして徐々に大会に出たいという思いがみんなから強くなり、神奈川県病院協会主催の野球大会にエントリーをしました。そこで、まずはユニフォーム作りやヘルメット・バットをそろえることからはじめ、ようやく7月12日(日)の初戦を迎えたところ見事初勝利をおさめることができました。2回戦は残念ながら負けてしまいましたが、職員同士の交流の場にもなり、日ごろの業務にも良い影響が出るのではと期待しています。これからますます盛り上げていきたいと思ひます。



地域連携室 相談課 課長 高橋 靖明 (野球部 GM)

